

～同推だより～

出会い

【編集】
散岐地区同和教育推進協議会
【発行日】
令和7（2025）年2月25日
《第34号》



○ 意見・感想 ○



◆部落差別について、小さい頃から親からマイナスイメージを植え付けられて育った。

◆祖父から「あの子はどこの子だ」と言われ、「（同和地区名）だ」と言うと「もう連れて来るな」と言われ、その後、ぎくしゃくした関係が何十年も続いた。

◆（DVD 中の）教職者であった父親が結婚を反対したのは、やはり部落差別が根深いものであるのだと思う。

◆息子が同和地区外の女性と結婚したいとの話を受けて、「結婚させない」と言われると思って訪問したら、「よろしくお願いします。」と言われた。差別は、受けた者でないと分からないと思う。

◆自分のことと置き換えて考えることが多く、非常に良かった。

◆現在は、インターネット等による情報により、何が正確なことか分からない状況だが、鵜呑みにせず正誤を判断する知識や能力（メディアリテラシー）が大切だと感じる。



小地域座談会の様子

◆我が子の学校での同和教育を通じて、自身も学習することができた。

人権を生活の基本に

人権・同和教育小地域座談会

暮らしの中のさまざまな人権問題について話し合う小地域座談会を、昨年11月に全8集落で開催しました。

今回は、人権啓発DVD『出会いから学ぶ～

しなやかな新時代・高田美樹～』を視聴後、話し合いを深めました。DVDの概要及び意見・感想をお読みいただき、人権問題を自分事として学びを深めていただければ幸いです。

部落の心を伝えたいシリーズ 第27巻

出会いから学ぶ～しなやかな新時代・高田美樹～ ～概要～

鳥取県西部の同和地区在住の高田美樹さん。中学時代の盲目のミュージシャンとの出会いが、自身の持つ差別心に気づき、生き方を大きく変えるきっかけとなりました。

美樹さんの母親の瑞穂さんは、父親の反対を押し切って、同和地区の晴久さんと結婚をしました。教員である祖父は、教員仲間から「教員なのに差別をするのか」と指摘されても晴久さん・瑞穂さん家族と絶縁状態にありました。

祖父は、教員を退職後、神社の宮司（神主）となりますが、遷宮の際に総代等との話し合いが難航しているところを晴久さんに助られました。以来、それまでの空白時間を取り戻すように親密な関係となり、「晴久ほど良い男はおらん」と言われて息を引き取りました。

また、美樹さんの勤務していた特別養護老人ホームでの出来事。入所している認知症傾向の女性との会話の中で居住地の話題になり、美樹さんが同和地区名を言った途端、その女性の顔色が青ざめて、介護を拒絶されるという直接の部落差別を受けました。翌日、再びその女性の対応をすることになり、同様の場面に遭遇した際、同じことをしては芸がないと思い、母親の出身地名を言ったところ、にこやかになりました。

「差別は、差別を受ける側だけでなく差別をしている側も苦しめること」「差別に直面してもしなやかに乗り越えること」「相談できる存在の大切さ」「自分らしく輝いて生きていくこと」等、実体験を通じて伝えています。

令和6年11月に小地域座談会を各集落で開催しました。ご参加いただき、ありがとうございました。

今回もDVDを視聴後、意見交換を行いました。参加者は、全体で50名弱でした。

参加者からは、「座談会の内容を含めた工夫が必要」、「土・日曜日の昼間に開催してはどうか」等の参加者数の増加に向けた意見や、「毎年、継続して実施することが大切」、「高田美樹

さんの講演を直接聞いてみたい」等の意見もありました。

小地域座談会を終えて

散岐地区同和教育推進協議会
推進員 前田 武志

同和問題等、さまざまな人権について学習する機会は、とても大切です。

家庭・学校・職場・地域等にあるさまざまな人権について、普段から気軽に話し合えるような社会となることが何よりだと感じています。

散岐地区同推協は、小地域座談会だけでなく、講演会、視察研修、国際交流等、さまざまな事業を実施しています。

今後とも、地域の皆さまの同推協事業へのご理解とご協力をよろしくお願いします。

多文化を楽しく学ぶ

国際交流事業（内モンゴル編）

国際交流事業の一環として、「多文化を知ろう！内モンゴルのお話」を、12月14日（土）に開催しました。

講師に、鳥取市国際交流員を務める烏雲夫（ウーユンフ）さんをお迎えしました。

今回、参加された方は、普段料理をしていない男性が多く、悪戦苦闘しながらも、「ホーショル（肉やニラ・玉ねぎを皮で包んで油で揚げた料理）」と「卵スープ」の中華風料理を完成させました。



料理作りの様子

その後、料理をいただきながら、スライドショーで内モンゴルの歴史や生活、文化について烏さんのお話を聞き

ました。

内モンゴルは、中国北部に位置し、外モンゴルは中国から独立した現在のモンゴル国にあたること、中国史上最大の国土を誇った元朝の始祖であるチンギス・ハンがモンゴル民族の祖先であるため、中国では「中華民族の英雄」としてたたえられていること、真冬を迎えるとマイナス30℃からマイナス40℃にまで下がること、食生活は、長い冬と乾燥地特有の気候に適した肉や乳製品が欠かせないこと、姓（苗字）がなく下の名前のみであること等、さまざまなことを知ることができました。

お話の途中には、モンゴルティーもいただき、心も体もほっこりとした和やかな時間となりました。



食事・聴講の様子

～編集後記～



暦の上では春が始まっています。梅もほころんでいます。春は、光、音、そして、気温の三段階でやってくると言われています。

「光の春」は、冬季に極寒が続くロシアから伝わった言葉で、厳しい寒さの中でも徐々に日が長くなり、日差しも強くなっていく様子に春の気配を感じることを表現しているとのこと。光に反応して冬眠していた動物たちが目を覚まし、植物の花芽が成長します。

「音の春」は、雪解け水が流れる川のせせらぎや、ヒバリやウグイスの初鳴きにより感じられます。

そして、3月下旬には、桜のつぼみもほころび、いよいよ「気温の春」がやってきます。

来たる春を五感で感じていきたいと思えます。

(T. O)

